

論文内容の要旨

論文提出者	中村 哲也
論文題目	The Effect of Insulin Administration and Antibacterial Irrigation with Chlorhexidine Gluconate on Disturbance of Periodontal Tissue Caused by Food Impaction in Streptozotocin-Induced Diabetic Rats
<p style="text-align: center;">研究目的</p> <p>Streptozotocin (STZ) 誘発糖尿病ラットを用い食片圧入を想定したコル部の器械的圧迫による歯周組織障害に対し、インスリン(Ins)投与および0.2%クロルヘキシジングルコン酸塩溶液(Chlo)での殺菌洗浄効果を明らかにする目的で実験病理学的に検索した。</p> <p style="text-align: center;">材料及び方法</p> <p>5週齢SDラットを非糖尿病群(N群)と糖尿病群(DM)に分け、コル部にガッタパーチャーポイント(GP)を挿入し圧迫した。DM群は、Insを投与した(DM+Ins)群と、Chloで殺菌洗浄した(DM+Chlo)群に分け、各群のコル圧迫1日、3日、5日、7日、14日の歯周組織変化を病理組織学的に比較検索した。</p> <p style="text-align: center;">結果および考察</p> <p>1. N群では、コル部で早期に壊死層や潰瘍が形成された。歯槽骨頂に吸収はなく、その下方での著しい吸収が生じる食片圧入での特徴的な骨吸収が生じた。圧迫5日以降、経日的に修復性変化が生じ、上皮の再生や骨添加も生じた。</p> <p>2. (DM+Ins)群では、早期に壊死層、潰瘍、細菌増殖が生じ、歯槽骨頂が潰瘍部と近接したが、腐骨形成はなく経日的に歯槽骨の吸収が生じた。圧迫7日には上皮の再生、骨添窩など修復性変化が生じ、N群同様の組織破壊と修復がみられた。糖尿病状態での歯周組織障害はIns投与で改善されることが示唆された。</p> <p>3. (DM+Chlo)群では、早期より壊死層、細菌増殖による細菌汚染物質、炎症細胞浸潤が生じた。歯槽骨頂では一部腐骨化が生じるなどN群や(DM+Ins)群と明らかに異なっていた。圧迫3日、5日で歯槽骨頂の下方で著しい骨吸収が生じ、経日的に歯周組織に修復性変化もみられるなどChloの殺菌洗浄が一定の効果を示すことが窺われる例がみられた。しかし、コル部に細菌汚染物質が存在し、破壊性変化が進行している例もみられ、Chloの殺菌洗浄のみで歯周組織障害の軽減は困難と考えられた。</p> <p style="text-align: center;">結論</p> <p>糖尿病状態をインスリン投与で改善することにより、非糖尿病群と同様の修復性変化を認めた。一方、糖尿病状態では、Chloの殺菌洗浄が一定の効果を示したが、洗浄殺菌のみでの歯周組織障害の軽減は困難であると考えられた。</p>	

